

ダイダイ挿し木苗 里帰り

地元生産者 静大生研究者 ブランド化へ第一歩



ダイダイの挿し木苗を植える(左から)松本教授、厚味さん、岡野谷さん＝熱海市上多賀

熱海市の特産ダイダイを生産する「シトライ・カンパニー」(岡野谷伸一郎代表)と静岡大は11日、ダイダイの挿し木苗を上多賀の畑に植えた。挿し木により形質が安定化し、使い道に合わせた栽培が可能になるといい、ダイダイのブランド化に向け期待が懸かる。

同社と同大農学部園芸イノベーション学研プロジェクトの一環で、プロジェクトの厚味利歩さん(4年)らが大学のほ場で研究してきた15本の苗1本を植えた。苗は昨年5月に岡野谷さんの畑で実生(みしょう)の木から切り取った枝を育てた。厚味さんらは糖や酸度など形質の安定した木を挿し木で増やす可能性を研究している。ダイダイの根はウイルスにかかりやすいため、カラタチを使

つた接ぎ木が多く、これまで挿し木は行われてこなかったという。厚味さんは「熱海ダイダイを象徴する一本となるように育てほしい」と話した。岡野谷さんは「挿し木苗を植えるのは初めて。地域との差別化をはかるための第一歩になる」と話した。苗は風よけを設置し、根が安定するまで保護する。同研究室の松本和浩教授によると、根がつけば年内には約1歳にまで育つという。